



やっぱり、家族っていいね。

家族の日
家族の週間

このコンクールは、内閣府「家族の日」
「家族の週間」の趣旨に賛同しています。

令和4年度



石川町

家族への手紙コンクール最優秀賞作品集



石川町青少年健全育成推進協議会

石川町教育委員会

後援：福島民報社、福島民友新聞社、町民ニュース社、夕刊いしかわ新聞社

【目次】

最優秀賞作品

「おとうさんへ」

石川小学校 一年 鈴木 感人 1

「れおくん生まれてきてくれてありがとう」

石川小学校 二年 安藤 龍空 2

「なかよしのお父さんへ」

石川小学校 三年 金澤 澄怜 3

「バアへ」

石川小学校 四年 小林 一心 4

「いつもありがとうお父さん」

石川小学校 五年 矢内 優衣 5

「ぼくと妹」

石川小学校 六年 曾根 秀祐 7

「ひいおじいちゃんへ」

石川中学校 一年 乾 蒼一郎 9

「一生の宝物」

石川中学校 二年 志田 未来 12

「両親へ」

石川中学校 三年 桑沢 凧 15

「お父さんとお母さんに伝えられない感謝」

福島県立石川高等学校 二年 水野谷 優 18

優秀賞・優良賞入賞者

22

【家族への手紙コンクールの趣旨】

生きとし生けるものは、親から子へ、そして子から孫へ、古来からその尊い命が受け継がれ、現在に至っています。子どもたちは成長し、やがて親となります。命を後世に伝え、命の大切さを強く認識し、家族愛を一層確かなものにするため、「家族への手紙コンクール」を実施しました。

おとうさんへ

石川小学校 一年 鈴木 感人

おとうさん、いつもおしごとをがんばっているね。ぼくは、おとうさんといると、げんきになるよ。おとうさんと、どっじぼおるやごるふをやるのがたのしいよ。おとうさんがなげたぼおるがとれると、

「すごいぞ、ないす。」

とってほめてくれるからうれしいよ。

おとうさん、いつもあそんでくれてありがとう。こんど、おとうさんがやっているにわのていれをてつだうよ。いつもげんきはわあをありがとう。ぼくも、おとうさんにはわあをおくるよ。

「おとうさん、すごいぞ。ないす。」

れおくん生まれてきてくれてありがとう

石川小学校 二年 安藤 龍空

れおくん生まれてきてくれてありがとう。

おにいちゃんは、れおくんが生まれてくるのを
ずっとたのしみにしていたよ。はじめてれおくん
を見たときに、こんなに小さくてかわいいんだと
思ったんだ。おそるおそる手をさわると、小さな
手でぼくのゆびをぎゅっとにぎってくれたね。す
こしてれくさかったけれど、とてもうれしかった
よ。

れおくんが大きくなったら、いっしょにかけつ
こをしたいな。だからぼくがおにいちゃんによか
ったって思ってくれるようにがんばるね。

なかよしのお父さんへ

石川小学校 三年 金澤 澄怜

お母さんがお仕事するとき、お父さんはごはんを作ってくれるよね。ありがとう。前は買ってばかりだったけど、さい近作ってくれるようになったね。できるりょう理は二つだけど、お母さんが作るよりもおいしいから、お父さんのオムライスとカレー、大すきだよ。オムライスは、バターがたっぷり。わたしがたまごをわってまぜる係。カレーは肉がすごく大きい。わたしがじゃがいもの皮をむく係。二人でキッチンに立ってりょう理するのもとっても楽しいよ。

「澄怜、まぜ方うまいな。切り方うまいな。」とほめてくれる。作りながら、わたしが赤ちゃんの時の話をよくする。おなかがすいてないから、いたずらでお父さんのおっぱいをやったら、よけないしたこと、おもしろい話ばかりで大わらい。お父さんは、

「澄怜、小さいままでいてくれ。」
とよく言うけど、それはむり。大きくなったら、わたしがお父さんにごはんを作るね。

バアへ

石川小学校 四年 小林 一心

「バア、どこかな。」

ぼくがおりるバスでいが見えてくると、ぼくはこっさりバアのことを探しているんだよ。だって、いつもバアがバスでいでぼくの帰りを待っていてくれるから。ぼくが安全に道路をわたれるかいつも見守ってくれるんだよね。

バアのすがたを見つけると、次にぼくが考えていること分かる？それは、今日の果物何かなってことだよ。だって、バアは、帰ってきたぼくに必ず、

「果物食べる？」

って聞くでしょう。ぼくの答えは、バアの姿を見つけたときに決まっているんだよ。

あとね、バア、知っている？バアの言葉にはまほうの力があるんだよ。だって、ぼくがけがをした時に、

「だいじょうぶだ。」

って言うってくれてるでしょう。すると、ぼくもがまんできて、力がわいてくるんだよ。大好きなバア、いつもありがとう。

いつもありがとうお父さん

石川小学校 五年 矢内 優衣

お父さんいつもありがとう。お仕事おつかれさま。つかれて帰ってきてるのに、嫌なことがあったり、宿題がなかなか終わらなくて私が機嫌悪くなったりすると、いつも声をかけてくれて優しく接してくれるよね。いつも迷惑かけてごめんね。私ももう五年生だから、これからはお父さんに迷惑をかけないよう気持ちを切りかえてがんばるからね。

お父さんは私がたった一つだけ習っているハンドボールのかんとくをしてきているよね。家にいる時のお父さんは笑顔でいつも笑わせてくれて優しいけれど、ハンドボールの練習の時や試合の時は真剣でいつもとちがうよね。この前あったハンドボールの県大会の時、はじめはすごく緊張して勝てるか不安だったけど、お父さんや他の先生達が大きな声を出してみんなに声をかけてくれたから、いつの間にか緊張がとけて、チームのみんなが自信をもってプレーできたんだと思うよ。結

果、全部の試合に勝って五年生で県一位をとれて
すごくうれしかった。お父さんや先生達にすごく
感しゃしているよ。本当にありがとう。優勝した
から東北大会に行けると思って楽しみにしていた
けれどお父さんから東北大会中止の話聞いた
時、ショックですごくやさしかった。だってみん
なで本気でがんばってとった一位だったから。あ
んなに一生けん命教えてくれたお父さんもショッ
クだったよね。でも気持ちを忘れないで、六年生
になったらこのチームみんなががんばって全国大
会に行けるレベルになって、お父さんを喜ばせる
からね。そしてみんな活やくして、笑顔で帰って
これたらいいね。

いつも何に対しても前向きで本気なお父さんを
私はそんけいしているよ。お父さん、いつまでも
健康でいてね。そして家族みんなで一生仲良しく
らしていこうね。私もお父さんみたいなカツコイ
イ大人になれるよう努力するからおうえんしてて
ね。

ぼくと妹

石川小学校 六年 曾根 秀祐

奈歩がお母さんのお腹にいて安静のために入院した時、ぼくはお母さんと離れるのが初めてだったから、とても寂しかったんだ。でも、しばらくして奈歩が無事に生まれてきてくれてほっとしたし、すごくうれしかったのを覚えてるよ。最初に顔を見たときには、初めての妹はとてもかわいいと思ったし、自分より小さな子が家族に加わるのはなんだか不思議な感じがしました。

奈歩が入学した時には照れくささもあって、最初、学校で会うのはちょっと恥ずかしかった。今は同じ石川小に通っていて、行き帰りも一緒の時間が多いけど、この一年が終わったら違う学校に通うことになる。今まであまり想像したことなかったけれど、六年生になって残り一年だっとなった頃から実感がわいてきて、すごく寂しくなってきた。だから、これからの八か月間はこれまで以上に一日一日を大切に過ごしたいし、学校での奈歩の姿をたくさん目に焼きつけておきたいです。

合奏部では、兄というより先輩として、分かりやすくていねいに教えたいと思っています。バイオリンは、一つ一つの練習を積み重ねていけば必ずいい演奏ができるようになるから、すぐに同じパートのぼくに甘えたり、あきらめたりしないで、奈歩も一生懸命練習に取り組んでください。来年には四年生になって、先輩として教える立場になるのだから、今のうちにぼくやほかの先輩達にどんどん聞いて、いろいろな事を知っておいてね。

ぼくが中学校に行って頼れる相手がいなくなっても、学校で自分らしくいられるか少し心配だけど、奈歩は友達と仲良く過ごせると信じているから、たくさん楽しんで頑張ってください。あと、今までのように何かを忘れても貸してあげることができなくなるから、忘れ物には十分気を付けてね。

ぼくは、奈歩と兄妹として毎日を過ごすことができますとても幸せです。来年からはそれぞれ上学年と中学生という立場になるけど、奈歩が学校生活も合奏部も上級生として頑張れるよう、いつも応援しています。

ひいおじいちゃんへ

石川中学校 一年 乾 蒼一郎

そちらは穏やかですか。石川町は、今年も暑い夏がやって来ました。僕にとって夏という季節は、一年の間で一番ひいおじいちゃんのことを思い出す季節です。

八月十五日、終戦の日を迎えると、ひいおじいちゃんはいつも僕に戦争の話をしてくれましたね。

「じいちゃんはな、東京にいた時空襲にあったんだ。目の前は火の海で、亡くなった人やけがをした人が沢山倒れていた。その上をとびこえながら、必死で逃げたんだ。あんな思いは、二度としない。ひどい光景だった。戦争は嫌だ。」

毎年毎年、真剣な顔で話しながら最後は悲しそうな表情になるひいおじいちゃんの顔を僕ははつきりと覚えています。小学生だった僕には、想像

するだけで怖くて、本当は聞きたくなかったことを、ひいおじいちゃんは気付いていましたか。

今年の夏休みに、僕はおじいちゃんに連れられて、町の歴史民俗資料館に行きました。中に入っ
てすぐ、おじいちゃんは一枚の写真をじっと見て
いました。沢山の若者が写っている大きな写真で
した。写真には、石川町大内採石場とありまし
た。写真の説明には「第八陸軍技術研究所 近松
穰大佐一行と地元有志勤労学徒たち」と書いてあ
りました。その写真を見つめながら、

「ひいおじいちゃんは、中学を卒業してすぐ東京
に働きに行ったんだ。でも空襲にあって石川町に
戻って来たんだ。そして、この写真に写っている
人たちと一緒に、ウランを掘ったんだ。」

と、おじいちゃんは僕に教えてくれました。それ
から半年後、ロシアはウクライナへの軍事侵攻を
開始しました。テレビで映し出される光景は、悲
惨です。今の僕と変わらない年でひいおじいちゃ
んは、戦争を目の当たりにしたんですね。ひいお

じいちゃんは、戦争の悲惨さを必死で僕に伝えようとしてくれたんですね。ひいおじいちゃんが僕に伝えようとしてくれたのに、僕は怖くてちゃんと聞こうとしなかったこと、本当にごめんなさい。

この夏、僕は石川町の希元素鉱物が軍事目的で注目され、素手でウラン鉱採掘を行ったこと、東京大空襲のことを調べたんですよ。今はもうひいおじいちゃんに戦争の話聞くことはできないけど、今から約八十年前にひいおじいちゃんが経験したことを僕は妹たちに教えてあげようと思います。もしまたひいおじいちゃんと話ができるなら、戦争の話は僕に教えてください。今なら、ちゃんと向き合えると思います。僕は戦争を経験していないけど、ひいおじいちゃんが経験した苦しみや平和の大切さを周りに伝えることはできません。今年の八月十五日は、世界の平和を祈りながら手を合わせようと思います。

一生の宝物

石川中学校 二年 志田 未来

「神様は本当にいるよ。」

家族に最後に伝えてくれたのは、大すきだったおばあちゃんです。

二年前の六月、おばあちゃんはがんと告げられました。私と妹は学校の帰りに、お母さんに教えてもらいました。私と妹は無言でお母さんの顔をじっと見ていました。家に帰ると、おばあちゃんがいつものように、「おかえり。」と優しい笑顔で迎えてくれました。悲しい顔をせずに、私たちに接してくれるおばあちゃん。おばあちゃんは強いんだなと思いました。九月に手術が決まり、手術当日。学校に行く前、

「おばあちゃんなら大丈夫！絶対に負けないで！」

と言つと、

「うん、ありがとう。」

と言うのを聞いて家を出ました。学校で過ごしている間も私はおばあちゃんのことばかり考えていました。家に帰り、お母さんが、

「手術成功したよ！」

と言い、私はホッとしました。朝からの長時間の手術だったそうなので、長い時間よく頑張ったね。と心の中でおばあちゃんに言ってあげました。それから、おばあちゃんは抗がん剤治療が始まり、体調が良くない日が続いたのでとても辛そうにしていました。また、味覚や嗅覚が分からなくなっていたのにも関わらず、私たちのためにご飯やケーキ、お菓子を作ってくれました。ありがとう。おばあちゃんはすごく辛いのに、弱音一つ吐かずに私たちに接してくれました。体調が良い時には、みんなでお弁当を作って公園に行ったり、買い物に行ったりしました。おばあちゃんの幸せそうに笑っている顔は、見ている私たちも笑顔になりました。そうして日を重ねていくうちに、最後の抗がん剤となりました。病室にはコロナの影響で行けなかったので、私、妹、お母さん、お母さんの弟で、

「負けないで。」

と画用紙に大きく書いたものをおばあちゃんがいる病室へと向けました。お母さんが、

「外を見てみて。」

と言うと、おばあちゃんが電話越しに泣いているのが分かりました。何度も、

「ありがとう、ありがとう。」

と言っていたので、私たちも涙を隠すことができませんでした。抗がん剤治療が終わって良かったと思っていました。容態が急変し悪化してしまつたのです。私は、おばあちゃんががんと教えられた時よりも胸が苦しかったです。在宅医療が始まり、マッサージをしてあげたり、ご飯をたべさせたりしていました。その一週後くらいに、

「これが幸せだ！神様は本当にいるんだよ。」

とおばあちゃんが言っているのを聞いて涙がとまりませんでした。三日後におばあちゃんは旅立ちました。

本当に奇跡はあるのだと思いました。感謝でいっぱいです。大好きだよ。

両親へ

石川中学校 三年 桑沢 凧

お父さん、お母さん。二人はいつも、私達四人の兄弟のために四六時中一生懸命働いてくれてますね。とてもとても感謝してもしきれません。

お父さん。お父さんは私の家である「くわざわ」の店長としていつも仕事をしてきていますね。特に最近、インスタグラムを更新するようになってからは本当にいそがしそうに感じます。朝七時半から夜七時までというただでさえ長い営業時間なのに、

それ以外でも仕込みなど本当におつかれ様です。先日、「休む日がないと曜日感覚狂うんだよな。」と口にしてたのをとても覚えてます。水曜日は定休日なはずなのに、次の日の準備やスーパーに送る用の品物をつくっている姿を見て、その仕事熱心さに尊敬の気持ちを抱きました。私は生徒会長という肩

書きがありますが、お父さんほど熱心に仕事をこなせていないので見習いたいと思います。お店のこと以外でも、家族のことをとても思いやってくれていますね。底なしに優しいお父さんは私たちにたくさん経験をさせてくれました。中一的时候、バスケット部に入ることへの背中を押してくれたのもお父さんでした。本当に感謝しています。ありがとうございます。

お母さん。お母さんは本当に私達のことを思ってくれていてとても心の支えになっています。学校で嫌なことがあったとき、勉強や部活が上手くいかなかったとき、いつも私たちの話に耳を傾けてくれました。お母さんがかけてくれた言葉に何度救われたことでしょうか。長女の私にとって、妹にとって姉がいるという存在がうらやましく、「お姉ちゃんが欲しい。」と本音をこぼしてしまったことがあります。その時に「私も長女だから気持ちわかるよ。母であり、姉

のような存在になれるように頑張るから。」と言っ
てくれたのを覚えていますか。その時私は、なんて
優しい人なんだろうと思いました。そして今では、
頼りになり、何でも話せる本当に姉のような存在に
なってくれました。本当にありがとうございます。

二人の両親には、今述べたこと以外にも、たくさ
ん感謝したいことがあります。二人がつくってくれ
た環境はとてすばらしいもので今私は、学業にと
ても専念できています。そのことをしっかり結果で
証明して恩返ししたいと思います。そして自立した
とき、ちゃんと親孝行するので、それまで元気に長
生きしてけると嬉しいです。

お父さんとお母さんに伝えられていない感謝

福島県立石川高等学校 二年 水野谷 優

まず、お父さん、お母さん、いつも私を助けてくれてありがとう。悩みを聞いてくれたり楽しく話をしてくれてありがとう。

私は、二人に伝えられていない「ありがとう」があります。それは、私が中学三年生の二学期の頃、突然私が学校に行かなくなってしまった時にお父さんとお母さんには迷惑をかけました。二人は、私に学校に行けと言うのではなく、「どうしたの。」と優しく声をかけてくれました。私が何も答えなくても、「ゆっくりでいいから。」と声をかけてくれました。お父さんとお母さんは、私を励ますために休日、ドライブに連れていってくれたり、私の好きな物を買ってくれたり好きな料理を作ってくれたりしてくれました。お父さんは、私に学校に行ってほしく

て、結構強く言っていた事があったけれど、後からお母さんに、お父さんが一番優の事を心配してくれていると聞きました。私はその話を聞いた時、とてもびっくりしました。今考えると、お父さんは私の事を心配しているのを隠したかったのかなと思いました。あの時、お父さんとお母さんがいなかったら、今の優はいなかったと思います。二人がいなかったら、二人が心配してくれなかったら、私は今高校に行っていなかったと思います。だから二人には、本当に感謝しています。

私は、今、高校二年生になりました。今の私は、中学生の時の私じゃないと思います。そんな私がいるのは、お父さんとお母さんのおかげです。最近はお父さんとお母さんに中学校時代よりも、今日あった出来事や嫌だったことを何でも話せるようになりました。多分、あの時の出来事がなかったら、今日あった出来事など言えてなかったと思います。私

にとつては、嫌だった思い出でもあるけれど、お父さんとお母さんと改めて仲良くなるきっかけでもあったので、これからは、いい思い出として覚えておきたいです。お父さんは、十年ぐらい前の交通事故の影響で腰が悪くなってから仕事ができなくなってしまうけれど、色々助けてもらっているので感謝しています。お母さんは、お父さんが仕事ができなくなってから、一人で家族を養っています。私の相談をいつも何も言わないで聞いてくれたり、アドバイスをくれたりしているのでとても感謝しています。この手紙を書くまで照れくさくて言えなかったことだったけれど、私を助けてくれて本当にありがとうございます。今度は、私が二人を助けるね。

【優秀賞入賞者】

「おとうさんへ」
 「ゆうちゃんへ」
 「お父さんへ」
 「おばあちゃんへ」
 「いんきよばあちゃんへ」
 「おじいちゃんとおばあちゃんへ」
 「お父さんへ」
 「ひいばあちゃんへ」
 「たくさんの感謝」
 「感謝」

福島県立石川高等学校

石川小学校	一年	石井	凜
石川小学校	二年	目谷	美月
石川小学校	三年	藤島	陵介
石川小学校	四年	岩下	優空
石川小学校	五年	近藤	葵
石川小学校	六年	二階堂	隼人
石川中学校	一年	長澤	ひかり
石川中学校	二年	林	美咲
石川中学校	三年	力丸	香音
石川中学校	二年	宗形	優我

【優良賞入賞者】

「うれしいな」
 「ばあちゃんありがとう」
 「おかあさんへ」
 「おじいちゃんおばあちゃんへ」
 「たなぐらおじいちゃんへ」
 「おじいちゃんへ」
 「お父さんへ」
 「ママの口ぐせ」
 「お母さんが言った言葉」
 「お母さんいつもありがとう」
 「お父さんへ」
 「お父さんへの感謝」
 「いつもありがとう」
 「お父さんへ」
 「大好きな二人」
 「お母さんへ」
 「私が尊敬する自慢のお母さん」
 「僕のお兄ちゃんへ」
 「ママは太陽」

福島県立石川高等学校

野木沢小学校	一年	矢吹	福也
石川小学校	一年	鈴木	友結
石川小学校	二年	添田	陽太
石川小学校	二年	小原	彩友香
石川小学校	三年	矢吹	優奈
石川小学校	三年	二瓶	耀太
野木沢小学校	四年	黒澤	結衣
石川小学校	四年	小林	穂希
石川小学校	五年	鈴木	杏奈
野木沢小学校	五年	佐藤	柚希
石川小学校	六年	矢吹	理桜
野木沢小学校	六年	神山	ヒカル
石川中学校	一年	金澤	怜也
石川中学校	一年	中島	美紅
石川中学校	二年	角田	絆
石川中学校	二年	富岡	由香里
石川中学校	三年	鈴木	爽加
石川中学校	三年	瀧口	皓太
石川中学校	二年	上館	結愛

令和4年度 家族への手紙コンクール最優秀賞作品集

石川町青少年健全育成推進協議会 石川町教育委員会

〒963-7852 石川町字関根 165 石川町教育委員会生涯学習課
電 話 0247-26-2566 F A X 0247-26-4992

